

11月9日に開催した「2025インターナショナル・フェスティバルinカワサキ」で、『まんが アフリカ少年が日本で育った結果』の作者 星野ルネさんに講演をしていただきました。ルネさんはカメルーンで生まれて、母親の結婚を機に3歳で来日し、姫路で育ちました。講演は第1部のトークショー、第2部のジェイソン・ハイヤーさん(文学研究者)とのトークセッションからなり、ともに多文化共生について面白く、かつ、考えさせられる点が多い内容でした。講演後のインタビューでは、さらに突っ込んで伺いました。



カメルーン共和国

面積 475,440km²
人口 2,865万人
首都 ヤウンデ
民族 バミレケ族、ファン族、
ドゥアラ族、フルベ族等
約250部族
公用語 フランス語、英語

11才のときに阪神・淡路大震災を 経験されましたね

姫路は西宮・神戸に比べると被災も少なかったので、大きな影響はなかったです。でもやはり恐怖は感じました。カメルーンは親戚が多いので、ハッピーも多ければ死を吊うことも多いです。「死」が突然来ることは感じていましたが、友だちの親戚や知人が被災して、自分にも起こりえる「死」を意識したのはこの時だったかもしれません。

タレント、漫画家として大活躍されていますが、 人生の転機は？

いろいろなところでマイノリティーを感じていて、早く自立したいと高校卒業後に工場へ就職しました。でも、しばらく働くうちに自分の何十年か後が見えてきて「何か違うことをしてみたい」と、知識が欲しくて図書館通いを始めました。

最初は自己啓発本から入り、歴史や天文や神羅万象など、いろいろなジャンルを半年間で300冊くらい読んだかな。その結果、自分の人生を初めて俯瞰して客観的に検証し、人類的、宗教的な見方もするようになって、「自分らしさって何だろう」と考えていました。

図書館通いの後、明らかに話し方も変わって、バイト先の飲食店のお客さんたちから「君は話題が豊富で面白いからメディアで発信したりすれば・・・」と言われ、「それならTV!」と上京。TV全盛期だったので、漠然とTVタレントと放送作家になりたいと思っていたら、幸い両方のオーディションに合格。二足の草鞋をはいてみましたが、なかなか売れず。少年時代の経験やバイト先でウケた話などをマンガに描いてTwitter(現在はX)やYouTubeに投稿しているうちに、多くの人がシェア、フォローしてくれるようになりました。

日本の生活で「戸惑うこと」はありますか？

いまだに「日本語上手ですね」と言われて面倒くさいけど、ボク自身は日本に最適化しているので、それは一切ないです。

一方で、甥っ子姪っ子などの若い世代や外国人扱いされて生きづらさを感じている人たちを助けてあげたい。そうした生きづらさは「国と国の間での習慣の違いや対立」よりも「個人と個人の間での価値観や性格の違い」の戸惑いや嫌悪から生まれてくるような気がします。

最近、「日本人ファースト」という言葉を耳にしますが、ボクは、一部のマスメディアの報道や切り取られた情報で、人々が外国人に恐怖を感じて、怯えてしまったからだ、と思っています。ほとんどの日本人は外国人とバーチャルな関係でしかない。だから日本に住んでいる普通の外国人のリアルを知れば、そういう発想は少なくなるのでは？

外国人の動きで日本がまわっているところもあるし、日本の社会の要請で来た人もいるのに、政府や自治体や企業の外国

人の受け入れに対するバックアップやサポートがちゃんとできていない。実態を明らかにしてこなかったことも原因だと思っています。まずは実態を把握して、情報を開示して、それからどうすればよいかを考えればいいんじゃないかな。

『アフリカ少年が見つけた世界のことわざ大集合』 という本も出されていますね。好きな「ことわざ」は？

ひとつは講演でもお話した「笑う門には福来る」です。

あとは「ことわざ」と言うより父親がよくボクに言っていた言葉・・・「大きな問題にぶつかったときは小分けにして、今日できることから一つずつやっていけばいい。」これは以前、宿題なんかから逃げ癖があったボクに言ってくれた言葉で、今も役に立っています。

アフリカで好きなことわざは「早く行きたければ一人で駆け、遠くへ行きたければ皆で行け。」(注) みんなで協力して生きていくのは大変なんですよ、意見も違うし、考え方も違うから。一人でやれば早いじゃないですか。でも、大きなことを成し遂げたかったら協力がないとできない。協力できるから人間は他の生物より強くなったし、国という単位でみても協力できるシステムや考え方ができるところが発展していますよね。

(注)「2024多文化共生フォーラム」でウスビ・サコさん(マリ共和国出身)も紹介。(2024SIGNAL秋号の特集を参照)

今後の夢は？

うーん、やりたいことがあり過ぎて・・・。そう、映画作りかな。それもアニメーション。例えば、国民的な『サザエさん』『ちびまる子ちゃん』『クレヨンしんちゃん』なんかの現代版で、普通の日本人の日常に自然に外国人が入って一緒に生活しているアニメ。昔は日本人しか登場していなかった学校風景に、アフリカ少年や外国人を登場させるの。ボクのマンガに使えるネタがいっぱいありそう。どうですか？面白そうと思わない？

それから、カメルーンは・・・「アフリカの縮図」と言われている国だから、まだまだボクも知らない所がいっぱいあるし、いろいろまわってみたい。

今日のフェスティバルの印象は？

多文化共生を考えるような取り組みをしていて、感心しました。リアルにいろんな国の人と触れ合うことができる素晴らしい機会だと感じます。みんな、まだまだ知らないことがいっぱいある。日本に住んでいる外国人の滞在ビザのことや、外国人が家を借りるときの実態などの寸劇も見せてもらったけど、こうしたことを知らない人が大勢いると思う。

こういう活動をしている団体や自治体が他にもあるだろうけど、お互いの取り組みを学びあって共振して、フィードバックが増えていけばいいですね。それらがネットワークとして横のつながりを強くしていけば、もっと大きなムーブメントになると思う。

最後に読者へのメッセージを

一番伝えたいのは人の輪なんです。石を投げる手をつなぐ手にしてほしい。外国人の友達ができれば、集まりやパーティーに誘ってほしい。それが、バーチャルとリアルをつなぐためにも有効じゃないかな。SNSを通じてバーチャルな情報はどんどん広がっていく。それはそれで便利だけれど、実際は人の輪を通じてリアルな関係が広がっていくことが、とても大切だと思っています。